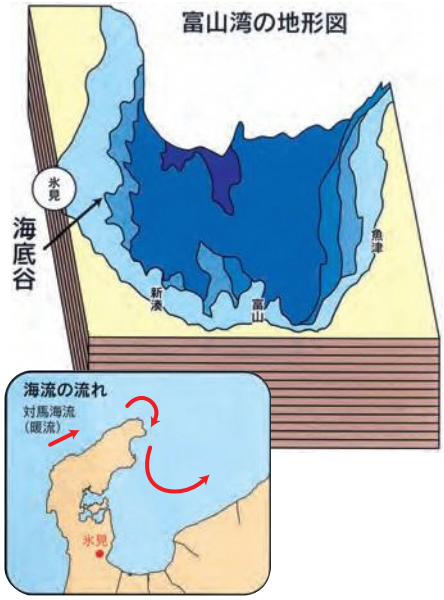
氷見の漁業

人　自然　食を未来につなぐ交流都市　ひみ

富山湾と氷見沖の特徴



富山湾は本州の中央部、北方へ伸びる能登半島の東側に位置しています。沿岸に大陸棚がほとんどなく、海岸から湾奥部の水深約１千メートルに達する海底まで「一気に落ち込む」急峻な海底地形が特徴的です。また、その急峻な斜面には、かつて日本海が海水で満たされていなかった太古の昔、流下する河川によって刻まれた数多くの峡谷が「海底谷」として存在し、「類まれな複雑さ」を有する漁場となっています。

この複雑な海底地形の漁場には、本州沿いに日本海を北流する対馬暖流が流入し、季節に応じて暖流を北上・南下回遊する回遊魚が来遊します。

加えて、北方に伸びる能登半島は魚の進路に立ち塞がる障壁として作用し、本州沿いに南下する回遊魚にとって富山湾は「関所」とも言える海域であるため、その好漁場となっています。

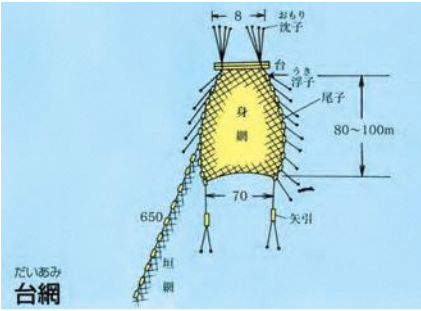
氷見は定置網漁業発祥地のひとつとされ、古くから定置網漁業が盛んに営まれてきた地域であり、全国的に「ひみ寒ぶり」に代表されるブランド魚の産地として知名度が高いです。

冬期の日本列島周辺は北西の季節風が強く、時化模様が続くため全国的に「薄漁」となり、マーケットへの魚の供給量が少ない時期ですが、氷見は地理的に日本海に向けて北方へ伸びる能登半島の付け根（東側）に位置するため、半島が激しい風浪を遮る巨大な防波堤の役目を果たして比較的波静かな風裏となり、定置網の操業がほぼ毎日可能です。

このような地理的好条件のもと、この季節には大型ブリ（ひみ寒ぶり）、スルメイカ、マイワシ等が氷見沖に来遊して盛漁期を迎え、これらが比較的安定して水揚げされることから、氷見が国内マーケットの主導権を握る局面が展開します。

加えて氷見では、戦後、氷を使用した鮮度管理が一般的ではなかった時代から沖氷を多用した漁獲物の鮮度管理が行われ、本地域の定置網で生産された魚は高鮮度で名を成してきました。これら、地理及び漁期の好条件と高鮮度をベースに築かれてきたのが「氷見ブランド」であると言えます。

定置網の歴史

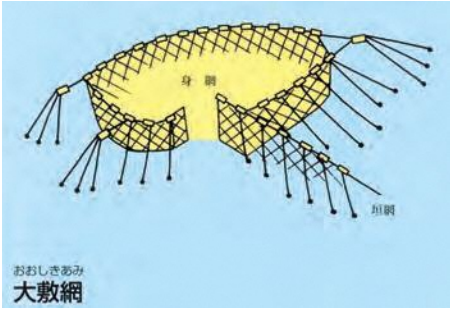


だいあみ
台網

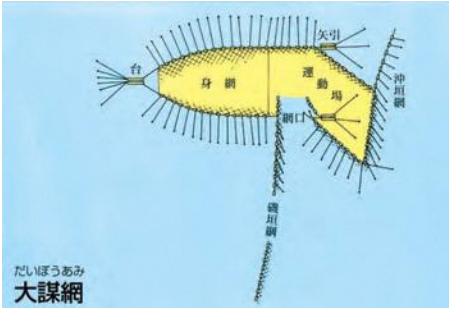
現在、富山県内の沿岸地先における定置網の敷設に関する最古の資料としては、今から約400年前の慶長19年(1614)にクロマグロを捕る夏網について記した文書が知られています。

近世の台網の構造は、魚をとらえる袋状の身網と、回遊してきた魚群を身網の中に導く垣根のように張り立てられた垣網の二つの部分からなり、当初は、共に藁縄で編んでつくられた藁網でしたが、江戸時代末期には、潮流の抵抗が少ない麻糸を使った麻網も現れました。

網が画期的な発展を遂げたのは、明治40年、従来敷設・操業されていた台網を整理し、当時宮崎県で大漁が続いていた新型の「日高式大敷網」が灘浦大境沖にはじめて導入されてからです。



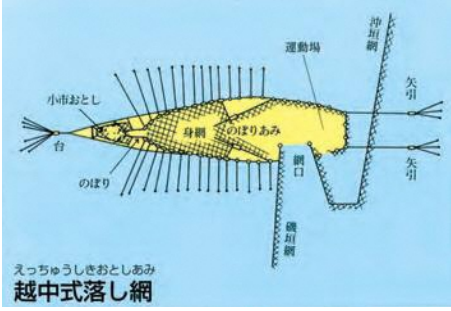
おおしきあみ
大敷網



だいぼうあみ
大謀網

その後、明治末年から大正初年にかけて、阿尾（氷見）の上野氏が網口など開口部を魚が逃げにくいように小さくした「上野式大謀網」を考案。さらに、大規模で長大な身網を持つこの大謀網の網取り等の操業時間を短縮し、かつ垣網に沿って身網に一旦入った鰤などの魚群の散逸を防ぐため、「のぼり網」を設けるなどの工夫がなされました。身網とのぼり網・角戸網の三つの部分から構成されるこの網を「落し網」といい、「越中式鰤落し網」とも称されています。

昭和40年代には魚捕り部の身網台寄りの部分に新たにのぼり網を設け、従来の身網の先端部分にやや網目の細かい別の身網を接続した「二重落し網」が考案され、それに伴い網の素材も改良が図られ、大規模な網の敷設が可能となりました。

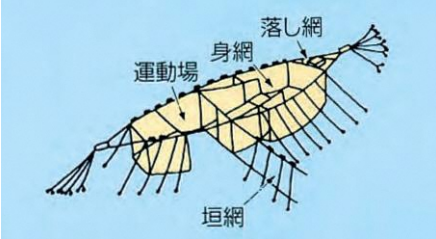


えっちゅうしきおとしあみ
越中式落し網

主な漁法

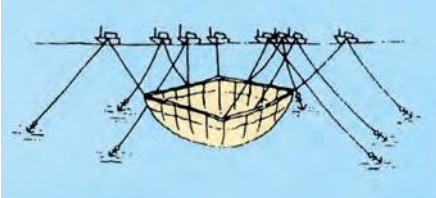
定置網

身網の水深が２７メートルより深いものは大型定置網、それより浅いものは小型定置網と分けられます。構造は、①垣網：魚道を遮断して魚群を囲い網へ誘導する網②囲い網(角戸、運動場)：誘導された魚群を一定の範囲に囲んで行動を制限し更に箱網に誘導する網③箱網(主網、身網)：入った魚群を最終的にとり上げる網④のぼり網：いったん箱網に入った魚群が逃げるのを阻止する網、などから構成されています。



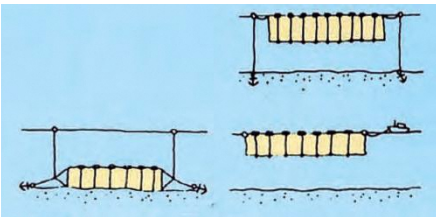
八艘張（八艘張網、敷網）

海の底に敷いた多角形の網の上に灯りをともして魚を集め、周囲を囲んだ八そうの船で網を引き上げ集まってきた魚をとる方法です。主にイワシ・アジ・ソウダガツオ・カマス・イカ・ニギスをとるために使われます。



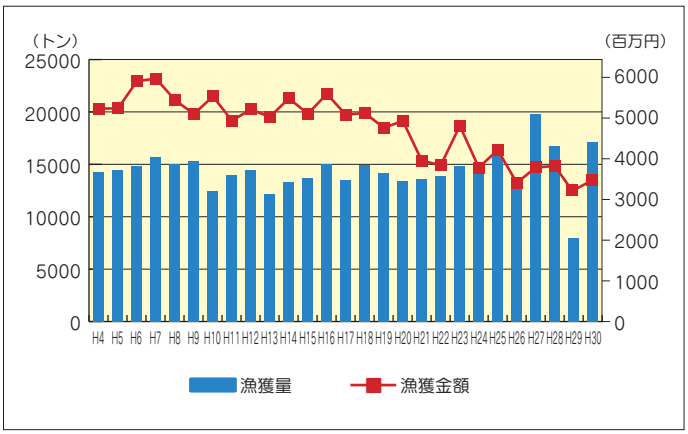
刺網（指網）

魚介類の通り道に帯状の網をカーテンのように張り、網の目に引っ掛けたり、からませたりして魚をつかまえます。刺網は網を水面下で固定する浮き刺網、海底に沈めて固定する底刺網、網を固定しない流し網があります。氷見では、漁をする場所によって磯辺の磯刺・沖合いの沖刺の２つを使い分けています。磯刺では、カレイ・クルマエビを、沖刺では、ヒラメ・メバル・タラを主にとっています。

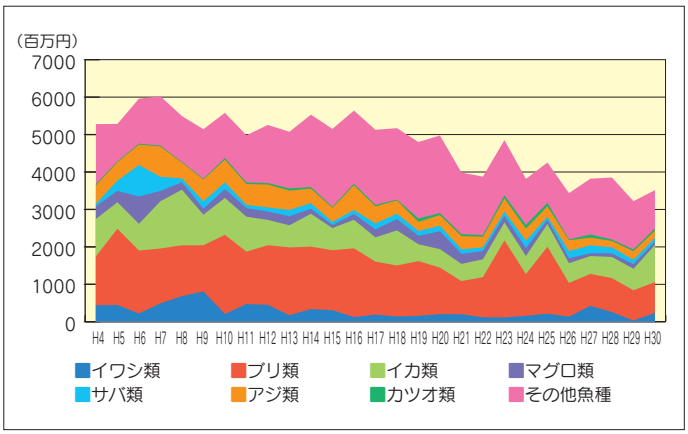


数字で見る氷見の漁業

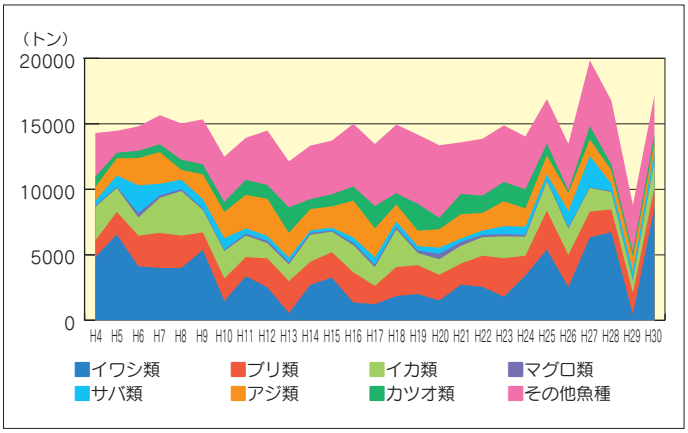
氷見市の漁獲量・漁獲金額推移



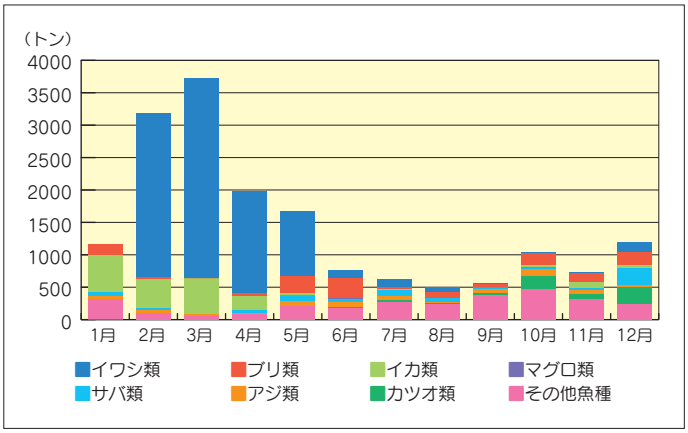
主要魚種別漁獲金額推移



主要魚種別漁獲量推移



主要魚種月別漁獲量（平成30年）



JF氷見（氷見漁業協同組合）

JF氷見は、漁業者の協同組合として、魚市場の開設・漁業権管理・漁業施設の整備・信用共済等の事業を行なっています。当組合は昭和６３年に地元７漁協と卸売市場の販漁連が合併し、日本海側屈指の組合として生まれ変わりました。

平成４年６月には氷見漁港の開港と新卸売市場を開設し、流通機構の改善を推進した結果、氷見漁港への水揚げは、地元定置網漁業をはじめ広く富山湾一円に及び、年間取扱高は漁獲量にして約１万５千トン、漁獲金額４０億円前後で推移しており、日本海側有数の生産流通の拠点として栄えています。

漁協の本来業務である販売・共済・購買・製氷冷蔵事業などのほか、ヒラメ、クロダイなどの稚魚放流によるつくり育てる漁業の推進、青年部を中心とした漁場環境の保全活動の推進と活動の一般市民への普及啓発など、豊かな海の恵みを将来に引き継ぐための指導事業にも鋭意取り組んでいます。

また、資源管理型漁業の研修として来日するＪＩＣＡ研修員を積極的に受け入れています。

■魚市場でのセリ

■クロダイの稚魚放流

■岩盤清掃

■浮有堆積物の除去

ひみ寒ぶり

ブリは、アジ科ブリ属に分類され、春から夏の水温上昇期に北上し秋から冬の水温下降期に南下する温帯性の回遊魚です。

寒ブリは富山湾の魚の代名詞となっており、「富山湾の王者」とも呼ばれ、中でも氷見で獲れる新鮮で脂ののった「ひみ寒ぶり」は全国ブランドとなっています。

ブリは成長とともに呼び名が変わる出世魚としても知られ、娘の嫁ぎ先へブリ一本を贈る風習が残っているなど、縁起の良い魚として欠かせないものであり、寒ブリシーズンの到来とともに地元は一段と活気づきます。

JF氷見では、「ひみ寒ぶり」ブランドとしてより一層の品質保持と信頼の確保を図るために

① 図形商標の登録
② 出荷箱の統一
③ 販売証明書の発行

などにより、ブランドを守る体制の整備に努めています。

販売証明書

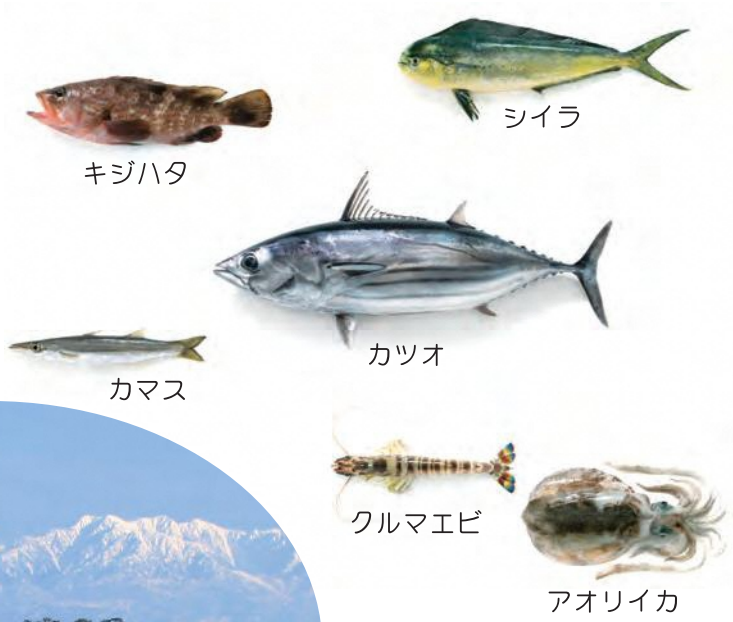
氷見の旬の魚

春
3～5月

イワシには、マイワシ、カタクチイワシ、ウルメイワシの３種類があり「氷見鰯」として全国的にも有名です。水産加工品としても重宝されるみりん干し、丸干しイワシ、煮干しとなっています。その他、サバ、クロダイ、ホタルイカ、サワラ、ヒラメ、マダコなどがとれます。

秋
9～11月

カマスは秋の訪れとともにやってきます。塩焼きはもちろん、一夜干しにしたものも美味しいです。また、秋は魚種が一番多い季節であり、ブリの一歳魚のフクラギやアオリイカ、ソウダガツオなどいろいろ。その他、シイラ、カタクチイワシ、ヒラマサ、メジナ、キジハタ、クルマエビなどがとれます。



夏
6～8月

マグロは世界の暖海全域に分布し広い範囲を回遊します。氷見沖では、夏のマグロシーズンに向け、マグロ網(夏網)定置が仕掛けられます。マグロの若年魚のメジマグロは11～12月に漁獲されます。その他、マアジ、トビウオ、タチウオ、ガザミなどがとれます。

冬
12～2月

初雪が降る頃、寒ブリ漁は最盛期を迎えます。ブリは夏に北上し冬に南下する回遊を繰り返し、富山湾では産卵前の脂ののったものがとれます。その他スルメイカ、マダラ、サバ、メジマグロ、ヤリイカ等がとれます。

氷見の漁港と漁場

女良（めら）漁港

＜市営・第１種＞
指定年月日　S26.12.13
防波堤延長　237.4m
物揚場延長　348.8m
泊地　15,700m²

大境（おおざかい）漁港

＜市営・第１種＞
指定年月日　S27.11.24
防波堤延長　342.4m
物揚場延長　330.6m
泊地　15,400m²

宇波（うなみ）漁港

＜市営・第１種＞
指定年月日　S26.7.28
防波堤延長　267.5m
物揚場延長　214.0m
泊地　13,350m²

薮田（やぶた）漁港（泊（とまり））

＜市営・第１種＞
指定年月日　S26.12.13
防波堤延長　388.8m
物揚場延長　471.8m
泊地　19,400m²

薮田（やぶた）漁港（薮田（やぶた））

＜市営・第１種＞
指定年月日　S26.12.13
防波堤延長　295.9m
物揚場延長　205.8m
泊地　17,200m²

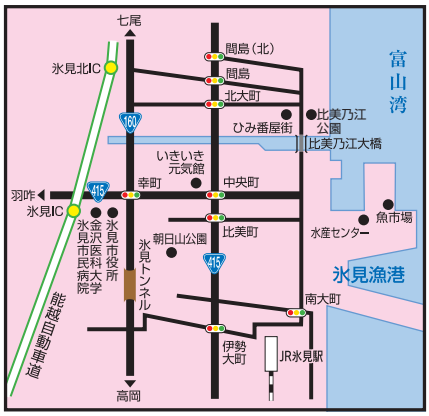
阿尾（あお）漁港

＜市営・第１種＞
指定年月日　S26.12.13
防波堤延長　258.3m
岸壁・物揚場延長　193.9m
泊地　13,700m²

氷見沖漁場図

氷見（ひみ）漁港　＜県営・第3種＞

指定年月日　S27.6.23　　防波堤延長　691.6m
岸壁・物揚場延長　1,596.0m　泊地　146,800m²



お問い合わせ先

氷見市産業振興部水産振興課
☎ 0766-74-8101

JF 氷見漁業協同組合
☎ 0766-74-0170

令和元年作成